

(様式第 4 号)

第 3 回上田左岸地域協議会 会議概要

1 審 議 会 名	上田左岸地域協議会
2 日 時	令和 7 年 7 月 17 日 (木) 午後 1 時 30 分から
3 会 場	川西公民館 大ホール
4 出 席 者	赤堀委員、有川委員、稲垣委員、入江委員、王鷲委員、田中委員、西入委員、 羽田委員、久松委員、前所委員、松田委員、水沢委員、宮坂委員、宮崎委員、 安江委員、山岸委員、和田委員
5 市側出席者	【 事 務 局 】平田市民参加・協働推進課長、山崎塩田地域自治センター長、嶋田 城南地域振興政策幹、春原川西地域振興政策幹、遠藤塩田地域振興政策幹、関地域内分 権推進担当係長、櫻井地域内分権推進担当係長、滝沢地域内分権推進担当統括幹、城下 地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、桐山地域内分権推進担当主任
6 公開・非公開	☒ 公 開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍 聴 者	0 人 記者 0 人
8 会議概要作成年月日	令和 7 年 7 月 22 日

協 議 事 項 等
1 開会
2 会長あいさつ
3 協議事項
(1) 住民自治組織との懇談 (地域内分権推進担当係長) 本日は住民自治組織との懇談会として、城下まちづくり未来会議、川辺泉田まち づくり協議会、塩田まちづくり協議会及び川西まちづくり委員会の 4 住民自治組織の皆様にご出席いただい た。初めに組織ごとに分かれて個別に懇談会を行い、その後に全体で集まって懇談内容の報告及び意見交換 を行う。 (地域別に分かれて個別懇談会) (会長) 地域別に懇談いただいた内容について報告いただきたい。 【城下まちづくり未来会議】 (委員) 城下まちづくり未来会議の活動についての説明をいただいた。主な活動としては、毎年開かれる城下 消防まつり、地域課題に関する市への要望活動、地区全体で取り組んでいる声かけ挨拶運動、フードドライ ブがある。 新たに課題として捉えていることを伺ったところ、まずは現状の課題解決に向けて取り組んでいる状況。 特に消防まつりは、台風 19 号の被害を踏まえ、防災対策に力を入れて進めていく必要があると考えて始めた 事業であり、多くの団体が集まり実施している。 住民自治組織の認知度がなかなか上がらない、という課題が挙がった。それぞれの自治会連合会もまちづ くり未来会議に参画しているが、自治会長は毎年代わるため、その都度説明する必要がある、活動を広めて いくことが難しい。

自治会の変化や課題について、須川地区は山間地にあり集落人数が少ないため、隣接の自治会や住民自治組織で応援できることを模索していくことが今後の課題になると捉えている。

行政に対して望む支援としては、公民館職員と自治連との繋がりが希薄なため、職員が自治連の会議に参画して内容を把握いただくことが挙げられた。

また、消防まつりが非常に盛況なため、消防団員の負担が増えてしまっている。団員の確保について、消防分団の課題というよりも地域(自治連)の課題として考えていただきたい、という意見もあった。

住民自治組織の認知度を高める方法については、自治会へ発電機や照明設備を貸し付ける際に、城下まちづくり未来会議の活動を紹介・PRしていきたい。また、行政への要望事項として、城下地区内に学童保育所を新たに設置していただきたい。要望活動を通じて、組織について保護者にも浸透することを期待する。

【川辺泉田まちづくり協議会】

(委員)これまでの住民自治組織の活動の成果について伺ったところ、自治会との連携はうまくいっており、特に学校PTAや育成会を含め、取組の成果は出ている、との回答があった。

これまでの活動の結果、新たな課題として捉えている部分はあるか、との質問については、小中学校区が他の住民自治組織区域と重複しているところは、ひとつにまとめれば活動しやすくなる、という意見があった。

住民の認知度については、あまり認知されておらず、自治会長が組織を知らない場合もある。これについてはSNSを開始し、より多くの方に理解していただく活動を進めている。

組織内に設置されている企画調整検討委員会について役割や効果を伺ったところ、地域活性化事業(地域課題の解決や地域活性化に資する事業に対し補助金を支出する制度)の事業内容を検討し担保する、といった成果が出ている、とのこと。

地域課題を解決するための地域コミュニティとの連携について、取組を決める際に地域課題の抽出や内容について自治会やその他の構成団体と協議をしており、意見交換についても地区連とは月1回、自治会長とは週2、3回は顔を合わせて話し合いをしている。

自治会やその他の構成団体と連携して行っている取組として、自治連と合同で実施している行政懇談会のほか、二以上の自治会が関係する課題等についても月1回の懇談会を行っている。

自治会要望を地区連とまちづくり協議会が連携して行うことについて、地区連の負担軽減に繋がるという点において連携の効果は出ているとのこと。

以前と比べて自治会の活動に変化や課題を感じていることについて、市から自治会連合会へ依頼する役員の廃止に伴い、役員を必要とする自治会から選出依頼を受けることがある。

地域の課題に対する自治会との連携や解決方法について質問したところ、自治会の役員は年単位で替わるため、自治会との活動や課題については住民自治組織側で継続して把握している。

川辺泉田地区では人口が増加して自治会未加入者も多い中、今後の自治会の役割を伺ったところ、新たに転入された若い世代から自治会加入の理解を得られていない現状があるとのこと。そこで、自治会が加入を促す際には、ごみ当番など敬遠される話題は避け、災害等における自治会加入の利点を示した方が良い、という提言を自治会に対し行っている。

住民自治組織として今後、力を入れていきたい分野は、二つ以上の自治会にまたがった事業の手助けをしていきたい。

自治会が担っている業務のうち、住民自治組織が請け負うことが可能な分野について、地区連の事務のうち毎月行う会議の通知や上田市自治会連合会の役員などが考えられるとのこと。ただし、業務を請け負うに

当たっては予算や人手不足が懸念されており、今後の課題である。

交付金や担当職員の配置の他に行政に対して望む支援と、市や地域担当職員、地域協議会に対する要望や意見について伺ったところ、組織の設立当初より市から明確な活動方針を示されておらず、交付金についても使途が示されないまま活動しているため、明確な活動方針を決めていただきたい、という意見があった。また、防災グッズや防災費についても人口に応じて配布・交付されており、それ自体に問題はないが、災害の少ない地区から多い地区へ防災支援を移行できる仕組みを市で整備してもらえると、まちづくり協議会でも動きやすくなる、という意見もあった。

【塩田まちづくり協議会】

(委員)これまでの取組の結果、新たに生じた課題について質問したところ、塩田まちづくり計画では「誰もが安心して住み続けたい塩田地域を目指して」を大目標として事業を展開しているが、現在の20人弱の役員と50人程度の部会員で担える役割には限界があるため、どのようにして多くの地域住民に活動へ参加してもらうかが今後の課題となっている。

各事業への住民の参加状況と地域における組織の認知度について、地域住民を対象とした講演会等については、チラシの全戸配布等による広報をしているが、参加者は自治会役員が中心となっている傾向が強く、依然としてまちづくり協議会の認知度は低いと思われる。

以前と比べて最近の自治会、地区連活動に変化や課題を感じることにについて、高齢化等により自治会役員のなり手がなくて困る、という話はあちこちで聞く。自治会も行事の簡素化を図る動きはあるようだが、新たな事業を展開する自治会もある。

地域の共通課題に対する自治会との連携については、地域の共通課題は一自治会では解決できないものが多いため、自治連単位あるいは塩田地区全体での取り組みにより解決方法を模索したい、とのこと。

住民自治組織が実施する事業は、本来いかなるものであると考えるか、との質問について、地域でできることは地域住民の力でやることが将来の住み続けたいまちづくりに繋がるものと考えており、行政にしかできないことは行政にやってもらう、との回答があった。

住民自治組織が今後、力を入れていきたい分野については、塩田まちづくり協議会は今年の通常総会で塩田まちづくり計画を改定しており、この計画に基づき防災安全、健康福祉、教育文化、地域振興、環境保全の各分野について取組みを進める予定。

現在、自治会や地域協議会が担っている業務のうち、今後、住民自治組織が担える分野はあるか、との質問について、自治会や地域協議会が担っている役割は住民自治組織が取って代わることができない内容であると考えており、塩田まちづくり協議会は自治会・自治連や各種団体と一緒にまちづくりをしていく、あるいは自治会等の後押しや補完をすることで相乗効果を生んでいくことが重要な役割であると考えて、との回答があった。

住民自治組織の今後の役割を考えるうえで懸念されることについて、塩田まちづくり協議会は平成29年に設立されたが、役員の構成は当時の塩田地区連役員と塩田地域協議会のメンバーが中心となってスタートしており、現在では主に4地区の自治連会長、自治会長及び自治会長OBが中心となっている。2年に1度の役員改正においては自治会と同様に役員のなり手不足で苦しんでいる、とのこと。

【川西まちづくり委員会】

(委員)設立からこれまでの住民自治組織の活動の成果について、4部会それぞれで活動しており、組織所属団体への活動費支給事業についてもお話しいただいた。

課題として感じていることは、認知度が低いことが挙げられ、広報誌やホームページも使っているが、各種イベントへの参加も住民自治組織の会員が主となり、なかなか外部からの参加には至らない。

自治会やその他構成団体との調整を図っているか伺ったところ、表立って調整することはないが、組織内には自治会長経験者が多くいるため、間接的な連携は図られている。自治会とは配布物のお願い等に関わっている。

川西地区の自治会や地区連の変化や課題としては、急激な人口減少と少子化が挙げられる。川西地区は10自治会のうち小泉以外は目玉となるものがないため地域間格差が生じている。住民自治組織としては、活動を通じて住民同士の横の連携を作り上げていくことにより、地域課題に対し貢献できると考える。

自治会との役割分担について、組織には自治会長経験者も多くいる中、会長を務めた当時の様子として、住民自治組織との連携を希望する声は無かったとのこと。

住民自治組織が今後、役割を担うことが可能な分野について、一人世帯が増えているため、社協や自治会と連携して取り組むことも考えられる。個々の団体がそれぞれ課題を設定し活動しているため、地域全体の課題の取りまとめや優先付けができていない。これらの整理ができればさらに効率化できるのではないかと考える。

行政から住民自治組織への支援等について、市の総合計画がある一方で川西まちづくり計画もあり、二重構造になっているが、市には情報が集まりやすいと考えられるため、市の持っている施策や課題の情報を住民自治組織に提供いただきたい、という意見があった。

(会長)報告に関し疑問点があればご質問いただき、住民自治組織の皆様からも他地区に関する事など情報共有の希望があればご発言いただきたい。

(川西まちづくり委員会)塩田まちづくり協議会ではまちづくり計画の改定をしたと伺った。当組織でも改定を検討しているため、改定経過をお聞きしたい。

(塩田まちづくり協議会)今年実施した塩田まちづくり計画の改定は部分的な改定であったため、住民アンケート等は行っていない。

平成30年に制定した計画は具体的な事業報告等の計画を定めていたが、その後、数年の変化の中で「現状に合っていない」「新しいものを加えたい」等の意見から、5部会ごとに具体的な活動計画について見直しを行った。

また、8年前は日本遺産の認定を受けていなかったため、状況が変わってきたことも含め、まちづくり計画の基本的な考え方や目指すものの手直しをした。全面的な改定ではないので数年後には見直しが必要と考えている。

(川西まちづくり委員会)住民自治組織は、行政主導で母袋前市長が先頭に立ち、思いを込めて立ち上げた組織だと承知している。スタートして10年が経ち、行政では今後も含め、組織の在り方についてどのように評価し、どのようにしたいと考えているのか。地域協議会へ諮問しているということは、迷っている部分があるのではないかと。

また、組織を「住民自治組織」と言っているが、住民自治組織というのは自治会や自治連であり、まちづくり協議会(委員会)というのは地域活性化のために集まったグループと考えており、住民自治の組織ではない。この違いをはっきりできなければ屋上屋となりかねないため、違いを認識できるような手立てを考えて

いただきたい。

自治会というのは生活環境改善のために必要なことをやる組織であり、まちづくりというのは文化・コミュニケーションの活性化・情報の共有など横の繋がりを持つ組織として文化振興や観光や商工振興を図るものと考えている。

(会長)市から意見を求められている内容は、住民自治組織の在り方を検討するために左岸地域協議会として住民自治組織の皆様との懇談内容をまとめて意見書として提出することであり、市が考えていくための材料を提供することが地域協議会の役割と認識している。

(市民参加・協働推進課長)平成18年3月に市町村合併を行い今年で20年目を迎える。その中で地域内分権と、参加と協働のまちづくりという大きな2つの基本理念を掲げて上田市は様々な施策を考えて展開してきた。10年前にいわゆる「まちづくり組織」を立ち上げ、ほとんどの地域で組織が設立されてきた。

今後について、コロナ禍を経て住民の皆さんの地域活動に対する考え方や携わり方が従前にも増して消極的になっている状況もある中で、人口減少や少子高齢化に加え、市としては自治会加入率の低下という課題をどのように解消していくか、ということを考えている。

自治会については、市民の一番身近な地域のコミュニティであり、地域の文化・歴史を背景にお互いの身近なところで助け合う組織として成立している。自治会の問題として役員の高齢化やなり手不足、さらには住民の要望の多様化もあり、自治会に求められる様々な役割やタスクが多様化してきていると感じている。

市としても放置することはできないと考えており、単一の自治会で解決できない問題は複数の自治会が共同で進めることにより解決が図れるのではないかと、という考え方をベースに住民自治組織の設立を進めてきた。

行政の関わり方について、9つの公民館単位に課長級と担当級の職員を配置してきたが、市と組織の関わり方については反省点や課題があると考えている。今後、地域の特徴を活かしながら地域づくりやまちづくりをしていくためにどのように進めていけば良いか検討していくために、各地域協議会へ諮問させていただいている。地域の情報共有ができる体制づくりを検討してまいりたい。

住民自治組織について、地域を自治している組織は自治会であるということは間違いない。名称を「住民自治組織」としているが、自治基本条例では「まちづくり組織」、国では「地域運営組織」という名称が使われており、統一感がないことは疑問に感じているところ。また、活動内容は自治というよりは地域の魅力アップ・地域振興・将来の安心安全なまちづくりに向けた活動を推進する組織であると認識している。呼び方についてご提案いただければ検討していきたい。

(塩田まちづくり協議会)会長として、まちづくり協議会は自治会の皆さんの拠り所でなければならないと考えているが、自治会に会議や委員会への出席をお願いして支部活動や委員会活動を進めることは自治会のお役に立っているのか、と思うところがある。先ほどの報告の中で、自治会の事務も担当できれば、という意見を聞いて考えさせられた。

合併後、上田市のまちづくりは、地域の拠点を作る、地域担当職員を置く、まちづくり組織を作るという3つの要素を以て地域内分権を図る、として進めてきた経過がある。合併から20年が経ち、塩田地域は2万人の人口を抱え、丸子地域も2万人の人口を抱える中、元々は町ということもあるが、合併から20年経っても塩田と丸子では地域自治センターの職員数と機能に大きな差がある。行政は平等性を確保すべきところ、現在の状況はどうか、という意見も出ている。

そのような状況の中、組織では 780 万円ほどの交付金をいただき、事業費として支部活動と委員会活動を合わせて 60%程度、あとは総務費等の経費が含まれるが、金額的には中途半端と感じている。一方で、まちづくり協議会でこれ以上の資金は消化できるのか、という議論もある。

上田市の住民自治組織は全て設立できていない中、平等性を確保しつつどういうことをやってほしいのか、地域のことは地域で考え、地域色があるのも良い、ということも言われてきたが、いつまでそういうことを続けていくのか。現在は移動支援や消防関係など交付金の使途も様々だが、ある程度の平等性を確保するのであれば、行政から住民自治組織への指示や依頼があっても良いのではないかと考える。

自治会と地域協議会、住民自治組織が屋上屋を重ねているという意見は根強くある。行政としてどのような方向性を持ってもらいたいのか、そろそろ示してもらっても良いのではないかと。

自治を運営している自治会は住民だけでなく行政も頼りにしている。一方でまちづくり協議会は資金をいただき、委員会や支部から挙がってきた事業を進めているが、住民の認識は薄いと感じており、塩田地域のまちづくりに寄与できているのか考えてしまう。

改めて、行政として住民自治組織をどうしたいのか、お聞きしたい。

(市民参加・協働推進課長)個人の所感ではあるが、住民自治組織には各地域の中心となる機能を果たしていただきたい、と考えている。ただし、現在は様々な団体が屋上屋或いは並列にある状態で役割分担をするのはなかなか難しい。幸いにして、住民自治組織の役員構成は各地域コミュニティの代表の方や関係者が集まっているため、組織内で地域課題と役割分担を話し合い、そこへ行政が加わって情報共有やコーディネートしながら進めていくのが望ましい姿ではないかと考えている。地域課題に対し、各団体の得意な分野を議論し分担することが望ましいとは思いますが、様々な考え方がるため、まずは協議の場を作っていく必要がある。

昨年度から実施してきた各種アンケートの結果と本日の懇談会を踏まえ、これからのまちづくりや住民自治組織を始めとする各団体の役割とあるべき姿、さらには市としての関わり方について、地域協議会として意見をまとめていただく。

今後について、過去にまちづくり講演会の講師を務めていただいた有識者の方からも助言をいただきながら、新たな 10 年のスタートを切れるように検討してまいりたい。

行政としてやるべきことはやり、皆さんに協力していただかなくてはならないことは話し合いの中で見出していきたい。

(2) その他

4 事務連絡

次回 令和 7 年度 第 4 回

日時 令和 7 年 8 月 21 日 (木) 午前 10 時 00 分から

場所 城南公民館 1 階 大ホール

5 閉会